

今回は、化石燃料(石炭火力)の削減についてお伝えします。

G7気候・エネルギー・環境相会合

主要7カ国(G7)は4月30日の気候・エネルギー・環境相会合で共同声明をとりまとめて閉幕しました。

[声明の主なポイント]

◆排出削減対策をとらない石炭火力発電を段階的に廃止

石炭火力は化石燃料のなかでも二酸化炭素など温暖化ガスの排出量が多いため、段階廃止を盛り込みました。廃止時期については「30年代前半」もしくは「各国の1.5℃目標が達成可能な期間内」とされ、各国の状況に配慮した記載となりました。

◆2030年にエネルギーの蓄電容量を22年のおよそ6.5倍に

蓄電池や水素といった電力部門のエネルギー貯蔵の容量を30年に22年の2.3億キロワットの6倍以上の15億キロワットに増やすとしました。太陽光や風力といった発電が安定しない再生エネと蓄電技術を合わせて脱炭素電源の安定供給に繋がります。

◆運輸部門の脱炭素化にはEVやバイオ燃料などの低排出ガスの自動車も貢献

自動車の分野では、EVだけではなく、バイオ燃料といった環境に対応した持続可能な燃料を使った低排出ガスの自動車も運輸部門の脱炭素に貢献できると位置付けました。

◆核融合発電が気候変動とエネルギー安全保障の問題解決になる可能性を認識

次世代技術の核融合発電にも触れ、気候変動とエネルギー安全保障の課題の解決策になる可能性を訴えました。

G7会議では、石炭火力の廃止が主要な議題となりました。欧州は35年の廃止を求めましたが、日本には廃止の目標年限はなく、ドイツは38年の廃止を定めています。G7各国は議論の結果、各国の脱炭素のペースに合わせて35年以降も柔軟性を持たせることで合意しました。日独を除くG7各国は、35年までに廃止する方針を示しています。

日本では石炭依存が高く、早期の廃止は困難です。現在、日本の発電量の約3割が石炭に依存し、30年度でも約2割を石炭に頼ると想定されています。35年以降も石炭を利用するのは、再生可能エネルギーや蓄電池の導入拡大、原発の再稼働による電力供給が十分になるまでの移行期間が必要だからです。また、生成AIの普及により電力需要が増加する見込みもあります。

合意された廃止対象は「排出削減対策をとらない石炭火力」で、CO2を回収・貯蔵する技術が想定されていますが、35年までにこれらの技術をどの程度活用できるかは不透明です。政府は、40年度までを見据えた次期エネルギー基本計画を24年度中に策定する予定で、化石燃料が約7割を占める現状を踏まえ、石炭火力の排出削減や電源構成についても議論されます。

2040年のGX戦略策定へ

政府は5月13日、2040年の脱炭素や産業政策の方向性を示す国家戦略「GX2040ビジョン」を、年内に策定すると発表しました。長期的な見通しを打ち出すことで、企業が投資計画を立てやすくする狙いがあります。データセンターなど大量に電力を消費する投資案件に備え、再生可能エネルギーや原発など「脱炭素電源」の拡充策をまとめます。15日に「GX実行会議」を開きエネルギー基本計画の見直し議論に着手しました。2050年に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする政府目標と人口知能(AI)時代の電力需要拡大を見据え、再生可能エネルギーと原発を最大限活用する方向で検討します。

[GX実行会議のポイント]

- ・2040年の脱炭素や産業政策の方向性を示す国家戦略「GX2040ビジョン」を年内を目途に策定
- ・再生可能エネルギーや原発など脱炭素電源の拡充策を議論
- ・産業集積地や脱炭素電源の立地、送電網の整備を検討
- ・二酸化炭素の排出量が一定以上の企業を対象に26年度から「排出量取引制度」への参加を義務化

※GX(グリーントランスフォーメーション) :地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出削減に向け、石油や石炭といった化石燃料から、太陽光や風力などのグリーンエネルギー中心の社会へ転換し、経済社会システム全体を変革しようとする取り組みです。

再生エネ分野への投資活発に

脱炭素社会を目指す中で、国内のエネルギー大手の間では、化石燃料への依存度を下げようと、洋上風力や太陽光発電など、再生可能エネルギーの分野への投資が活発になっています。このうち東京ガスは、国内外で手がける発電事業で、2030年に洋上風力や太陽光などの導入量を、現在の4倍以上となる600万キロワットにする目標を掲げ、およそ6000億円の投資を行っていく方針です。また、東京電力と中部電力が出資する発電事業者の「JERA」も、4月に再生可能エネルギーの導入や開発を行う新会社を発足させ、2035年度までに国内外で1兆円を超える投資を行うことを明らかにしています。国際的に化石燃料からの脱却を求める声が高まる中、エネルギー大手の間では、今後も再生可能エネルギーへの投資の動きが続きます。